

## 平成 28 年度第 2 回協議会（3 月 10 日）委員意見

## 1 中央緑地の森づくり

| 意見   | 備考                        |
|--|---------------------------|
| ○人と自然の博物館で育ったコミュニケーターが、有馬富士公園の三田市自然学習センターで見違えるような運営プログラムを行っている。ハードも大事だが、マネジメントに関わる人材をどう育成するかが重要であり、公園のコミュニケーターをどうするか議論したい。 | ◆議事 3「エピソードの集約・分析に向けて」で説明 |

## 2 中央緑地の利活用

|   | 備考                         |
|---|----------------------------|
| ○子どもが様々な環境と相互関係を結べる、また、子どもの知育に良い、脳が活性化する遊び場を尼崎の森中央緑地で考えたい。                      | ◆資料 2「尼崎の森中央緑地整備状況」で説明     |
| ○神戸市が導入した電動サイクルは面白い取組である。スマホでバッテリー容量や充電場所のチェックができるシステムになっているので、そのノウハウを参考にしてほしい。 | ◆資料 3「コミュニティサイクル利用状況」で説明   |
| ○知事から北淡路の岩屋から高速淡路、あわじ花さじき、景観園芸学校を巡回するバスの話が出た。尼崎でも、このような取組を市民と一緒にやると面白いと思う。      |                            |
| ○この公園の特徴は、周辺に工場があることなので、工場で働く人々に来てもらえる公園、あるいは、工場にある保育所の子どもたちが遊ぶ公園を考えたい。         | ◆資料 4「工場緑化推進方策検討会の協議状況」で説明 |

## 3 森の会議、活動団体の連携

| 意見  | 備考  |
|---|---|
| ○森の会議にコンビニの参加をお願いし、イベント等に参加してもらってはどうか。  | ◆11 月 4 日のモリンピックで、コープ神戸の参画を得てイベントを開催した。今後も、指定管理者や森の会議と連携し、事業者のイベント参画を検討していく |
| ○公園管理者とコンビニという、まさに今日的な公園の課題である。公園にコンビニをつくるのもよいが、公園と隣接する施設とどういう連携ができるかを検討すると面白い。 |   |

#### 4 行動計画の改訂

| 意見   | 備考                              |
|--|---------------------------------|
| <p>○入園者数など定量的な評価は、他の計画でも限界が指摘されており、運用がうまくいっているかどうかわかりにくい。評価結果を有効にフィードバックすることが重要であり、エピソード評価を取り入れてはどうか。</p>                | <p>◆議事3「エピソードの集約・分析に向けて」で説明</p> |
| <p>○尼崎の中央緑地の来園者数を平成33年までに50万人から60万人にしたいということを誰にどの様に示し伝えていくか、その方法を考えていきたい。</p>  |                                 |
| <p>○言葉をデータとして解析できるソフトがあり、それを活用した定性的な評価手法の研究が行われている。エピソードの評価結果を誰に見せるかを考えて評価指標を考えるべきである。そうすれば、県民にわかりやすく、関心が高まるのではないか。</p>  |                                 |
| <p>○行動計画の「継続」や「新規」の活動内容が魅力的である。計画的な用語は、行政内部では理解できても、県民には理解しにくい。行動計画は、仲間づくりの資料であり、多くの方に「一緒にやりましょう」と見せられる資料を検討してもらいたい。</p> |                                 |
| <p>○市民がこの取り組みにどう関わったらよいかを書く事も検討してはどうか。</p>   |                                 |